

# 常任委員会レポート

## 総務文教委員会

**Q** 団塊の世代の方たちが、たくさん退職される時期となり、国でも退職手当償を認めるとのことであるが、市としてどのように考えているか。

**A** 本市のここ2～3年を見通した場合、退職手当償発行の要件に当てはまらないと想定している。そのため、退職手当償を活用することについては、当面の間は難しいと考えている。

**Q** 月見の里学遊館で行う特定の自主事業に対しては、助成金500万円が、財団法人地域創造から市を通して指定管理者に支払われるとのことである。

自主事業は本来、指定管理委託料で賄うものである。今回、この助成金と指定管理委託料と重複することになると思われるが、いずれかを減額補正するのか。

**A** 指定管理者との協定書では、自主事業は、指定管理委託料で賄うこととしている。自主事業の実施にあたって、文化活動機関等の補助制度の活用を妨げないとされているため、助成金については、減額せずに上乗せすることで考えている。

**Q** 月見の里学遊館で行う助成金対象の自主事業に対して、市はどのように関わっていくのか。

**A** 決算までに、必要な書類の作成方法など、通常の指導に加え、市民公募の仕方が十分かどうか、また、事業PR等についてもいろいろな方法があるので、十分な指導をしていきたい。



月見の里学遊館

## 民生福祉委員会

**Q** 風見の丘の職員数、事務分掌及び勤務体系はどのように考えているか。また、ランニングコストはどれくらいを想定しているか。

**A** 職員は、正規職員2名、臨時職員2名の計4名を考えている。事務分掌としては、主には、所長が館全体及び委託業務の統括、臨時職員が日中の受付業務となる。

風見の丘は火曜日定休であり、変則勤務になるため、正規職員と臨時職員とを組み合わせる中で、常時2名の職員体制で対応していきたい。

ランニングコストについては、人件費を除き、約9,000万円と見込んでいる。

**Q** 風見の丘において、専門的に指導するトレーナーも含めた人数及び指導内容はどのように考えているか。

**A** 30人程度の勤務が適切ではないかと考えている。

トレーニング室には、インストラクターとして、トレーニング指導管理士などの免許所有者を常時1名配置するよう考えている。

また、フィットネス室には常時配置はせず、指導ができる運営スタッフを充てるよう考えている。